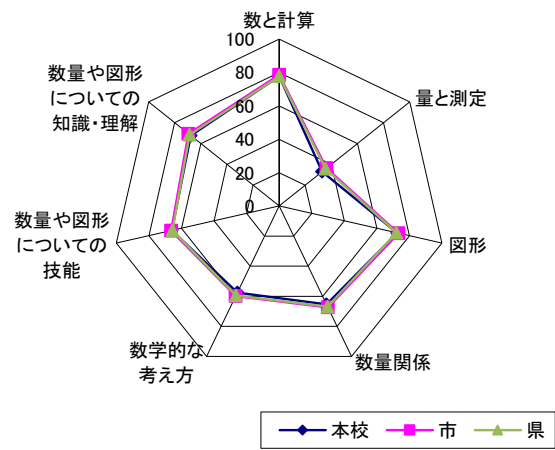


宇都宮市立富士見小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.8	78.6	77.7
	量と測定	33.0	36.3	35.7
	図形	72.6	73.3	72.1
	数量関係	65.4	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	57.6	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	65.9	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	67.6	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本領域の平均正答率は77.8%であり、県の正答率を0.1ポイント上回った。 ○帯分数・真分数の計算(同分母分数・繰り下がり)の計算の平均正答率は77.4%であり、県の正答率を4.6ポイント上回った。 ●小数と整数の中から一番大きい数を選ぶ問題の平均正答率は54.7%であり、県の正答率を10ポイント以上下回った。	・基礎的な計算、特に小数の加法・減法・乗法・除法について、朝の学習の時間等を活用して繰り返し復習したり、個別に指導したりすることにより、基礎・基本の定着を図る。
量と測定	●本領域の平均正答率は33.0%であり、県の正答率を2.7ポイント下回った。 ○1㎡の正方形は1cmの正方形の何枚分かを求める問題の平均正答率は53.8%であり、県の正答率を9.6ポイント上回った。 ●教室の机の上の面のおよその面積を推測し選ぶ問題の平均正答率は27.4%であり、県の正答率を11.5ポイント下回った。	・面積や角については、5年の「体積」や「三角形や四角形の角」等の学習で関連付けて復習する。 ・広さに関する感覚を養うために、その実感が得られるよう、具体物を操作する活動等を充実させて指導する。
図形	○本領域の平均正答率は72.6%であり、県の正答率を0.5ポイント上回った。 ○立方体の展開図から、ある面と平行な面を選ぶ問題の平均正答率は90.6%であり、県の正答率を5.1ポイント上回った。 ●与えられた2辺の続きを書いて、平行四辺形を完成させる問題の平均正答率は54.7%であり、県の正答率を4.0ポイント下回った。	・コンパスや分度器の使い方について再確認し、作図や測定に関する活動を充実させることにより、技能を確実なものにしていく。 ・図形を扱う単元において、三角定規を活用して平行、垂直の書き方の復習や、その特徴を確認する。
数量関係	●本領域の平均正答率は65.4%であり、県の正答率を1.5ポイント下回った。 ○提示された2通りの考え方のうち、どちらかを選び1つの式に表し買い物のお釣りを求める問題の平均正答率は56.6%であり、県の正答率を9.6ポイント上回った。 ●基石の並べ方と個数の関係を式で表す問題の平均正答率は48.1%であり、県の正答率を16.3ポイント下回った。	・問題の場面(絵や表)に示された数量の関係から、どのようなことが示されているか推測するために、図や数直線等に表示して答えを導き出すよう、指導の充実を図っていく。 ・5年生の学習においても、問題場面を図や数直線に表示してから立式する習慣を付け、定着を図る。